

令和5年度全国学力・学習状況調査

調査結果 大分県(公立)

令和5年8月10日(木)
大分県教育庁義務教育課

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果 速報

資料1

1 調査の概要

- (1) 調査期日 令和5年4月18日(火)
- (2) 調査を実施した児童・生徒数(学校数)
- ◆小学校6年生 8,946人(247校)
 - ◆中学校3年生 8,588人(118校)

※調査対象児童生徒が在籍する、市町村立小中学校(義務教育学校含)、県立学校(豊府中学校・壘学校小学部中学部・別府支援学校小学部)

(3) 調査内容

- ◆教科に関する調査：国語、算数・数学、英語(中学校のみ) ※英語は2回目の実施(前は平成31年度に実施)
- ◆児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査

<調査の目的>

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 結果の概要(教科別平均正答率)

小学校

- 国語、算数ともに全国平均正答率を上回る。

中学校

- 国語、数学、英語の全てで全国平均正答率を下回る。

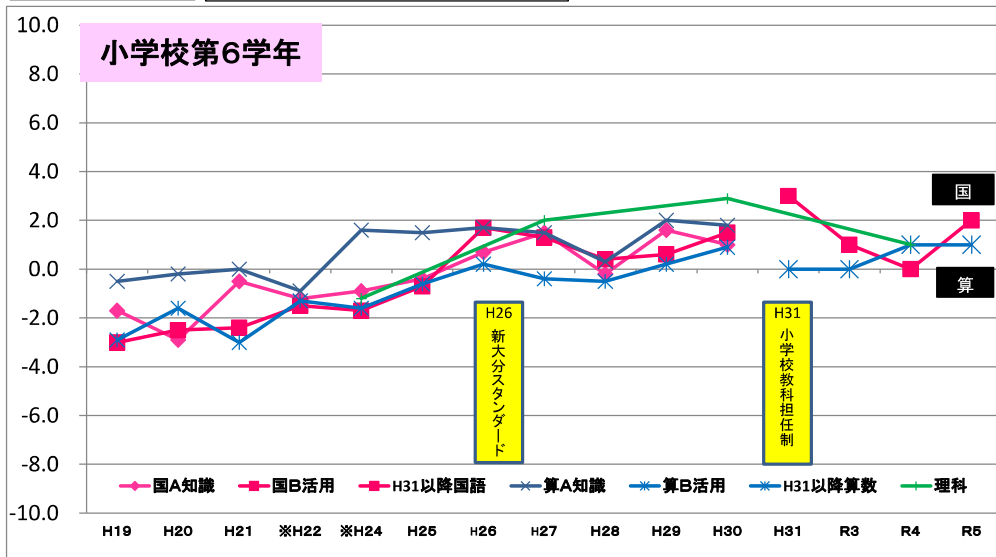
対象児童生徒	小学校6年生		中学校3年生		
	国語(14問)	算数(16問)	国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
R5大分県 (公立)	69 (9.6 / 14)	64 (10.3 / 16)	69 (10.3 / 15)	49 (7.4 / 15)	41 (7.0 / 17)
R5全国 (公立)	67 (9.4 / 14)	63 (10.0 / 16)	70 (10.5 / 15)	51 (7.6 / 15)	46 (7.7 / 17)
全国平均正答率との差	+2	+1	-1	-2	-5

全国学力・学習状況調査 全国平均正答率との差の推移

資料2

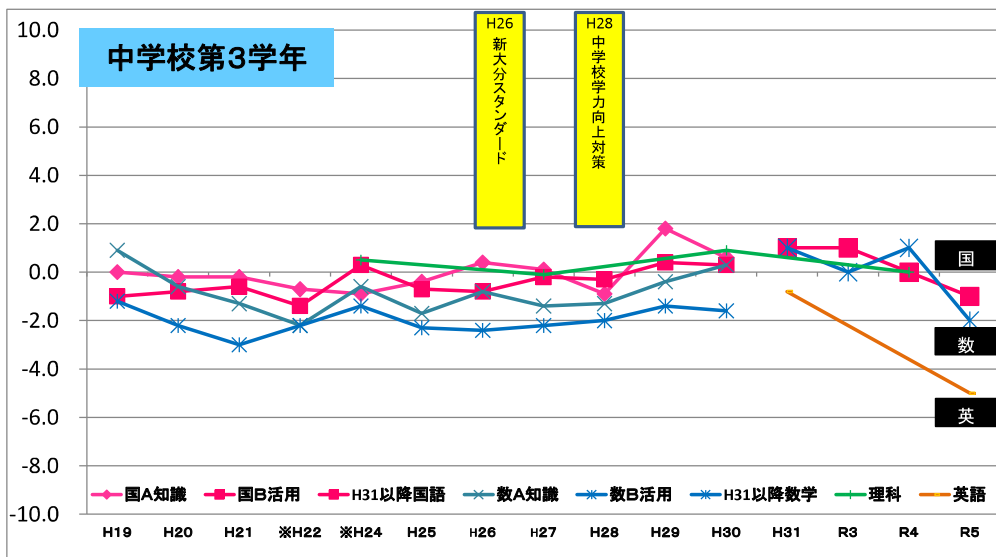
教科・区分別

※H22,H24調査は、抽出調査
■H31調査以降は、A・Bの区分せずに実施



※H22,H24調査は、抽出調査
■H29から、序列化や過度な競争を避けるため、都道府県別数値は整数値での公表に変更

対象学年	小学校第6学年				理科
	国語		算数		
区分	A知識	B活用	A知識	B活用	
R5	2		1		
R4	0		1		1
R3	1		0		
H31	3		0		
H30	1.0	1.5	1.8	0.9	2.9
H29	1.6	0.6	2.0	0.2	
H28	-0.2	0.4	0.3	-0.5	
H27	1.5	1.3	1.5	-0.4	2.0
H26	0.7	1.7	1.7	0.2	
H25	-0.4	-0.7	1.5	-0.6	
※H24	-0.9	-1.7	1.6	-1.6	-1.2
※H22	-1.2	-1.5	-0.9	-1.3	
H21	-0.5	-2.4	0.0	-3.0	
H20	-2.9	-2.5	-0.2	-1.6	
H19	-1.7	-3.0	-0.5	-2.9	



対象学年	中学校第3学年				理科	英語
	国語		数学			
区分	A知識	B活用	A知識	B活用		
R5	-1		-2			-5
R4	0		1		0	
R3	1		0			
H31	1		1			-0.8
H30	0.6	0.3	0.3	-1.6	0.9	
H29	1.8	0.4	-0.4	-1.4		
H28	-0.9	-0.3	-1.3	-2.0		
H27	0.1	-0.2	-1.4	-2.2	-0.1	
H26	0.4	-0.8	-0.8	-2.4		
H25	-0.4	-0.7	-1.7	-2.3		
※H24	-0.9	0.3	-0.6	-1.4	0.5	
※H22	-0.7	-1.4	-2.2	-2.2		
H21	-0.2	-0.6	-1.3	-3.0		
H20	-0.2	-0.8	-0.6	-2.2		
H19	0.0	-1.0	0.9	-1.2		

平均正答率の分布一覽

資料3

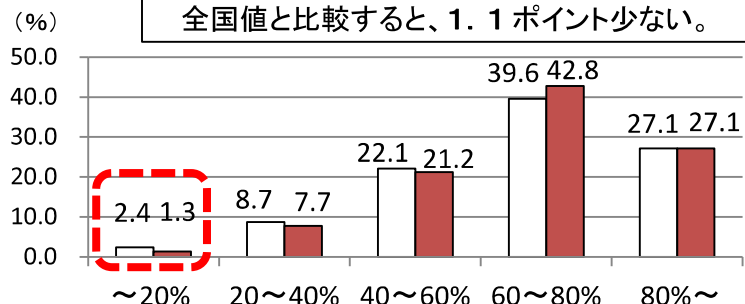
小学校

中学校

□ 全国 ■ 大分県

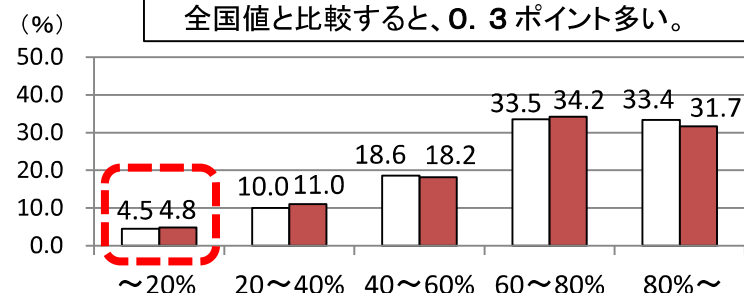
国語

低学力層の割合の全国平均値との差
全国値と比較すると、1.1ポイント少ない。



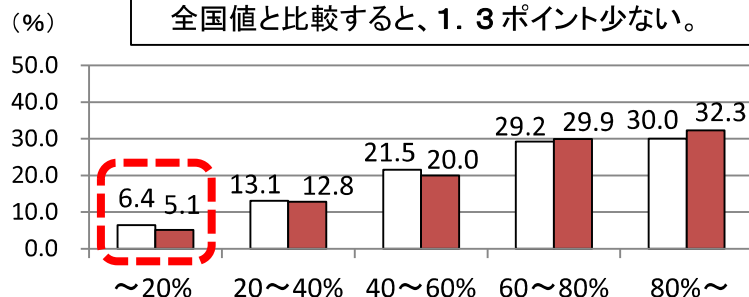
国語

低学力層の割合の全国平均値との差
全国値と比較すると、0.3ポイント多い。



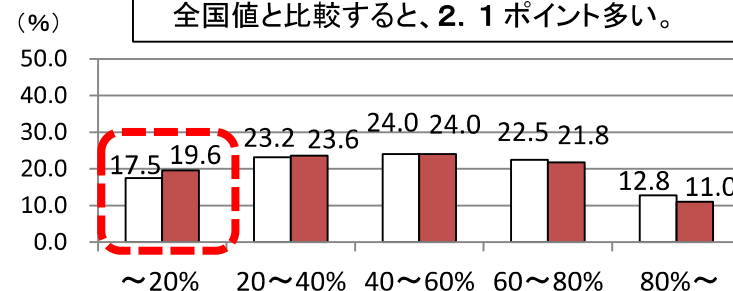
算数

低学力層の割合の全国平均値との差
全国値と比較すると、1.3ポイント少ない。



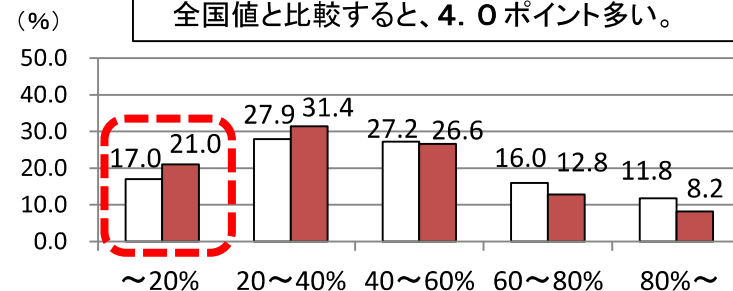
数学

低学力層の割合の全国平均値との差
全国値と比較すると、2.1ポイント多い。



英語

低学力層の割合の全国平均値との差
全国値と比較すると、4.0ポイント多い。



令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の結果①

資料4

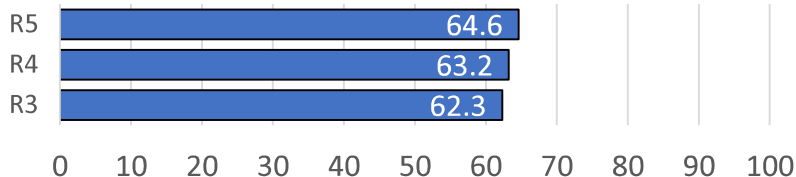
国語

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

◆ (小中) 「勉強は好き」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では3.1ポイント高く、中学校では0.6ポイント高い。「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では1.7ポイント高く、中学校では同程度となっている。

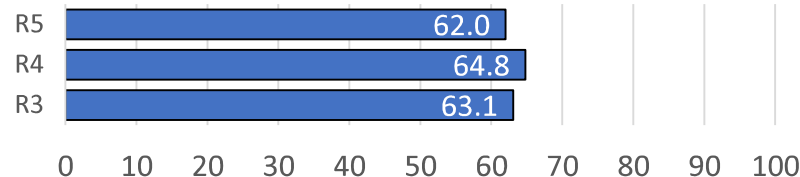
■ ① (小) 国語の勉強は好き

R5全国値: 61.5



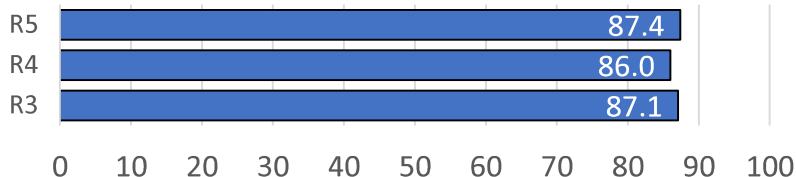
■ ① (中) 国語の勉強は好き

R5全国値: 61.4



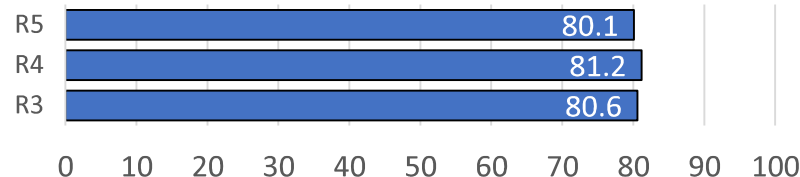
■ ② (小) 授業の内容はよく分かる

R5全国値: 85.7



■ ② (中) 授業の内容はよく分かる

R5全国値: 80.0



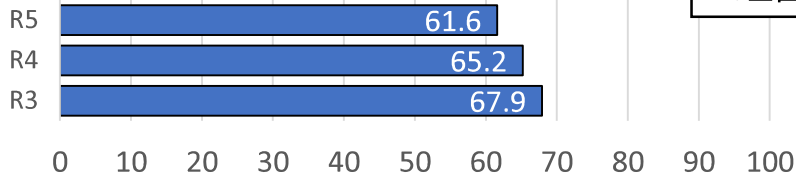
算数・数学

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

◆ (小中) 「勉強は好き」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では0.2ポイント高く、中学校では0.9ポイント低い。「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では同程度、中学校では3.7ポイント低い。

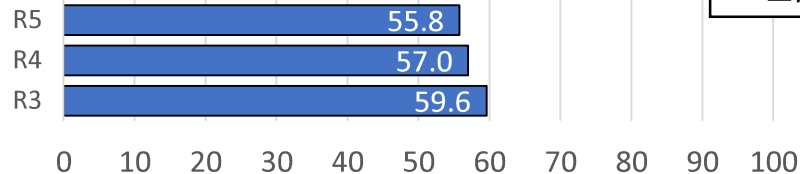
■ ③ (小) 算数の勉強は好き

R5全国値: 61.4



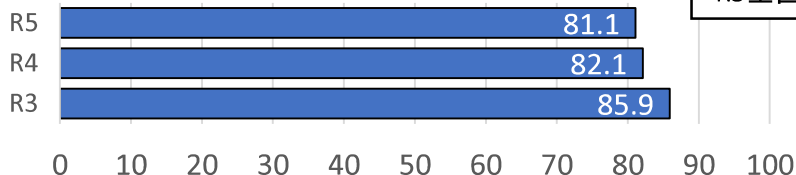
■ ③ (中) 数学の勉強は好き

R5全国値: 56.7



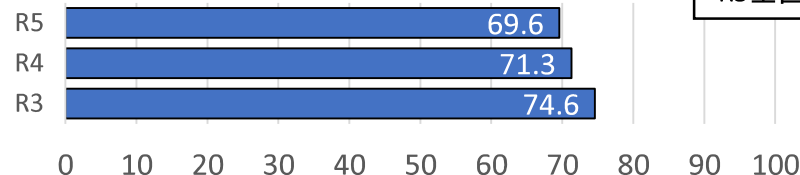
■ ④ (小) 授業の内容はよく分かる

R5全国値: 81.2



■ ④ (中) 授業の内容はよく分かる

R5全国値: 73.3



令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の結果②

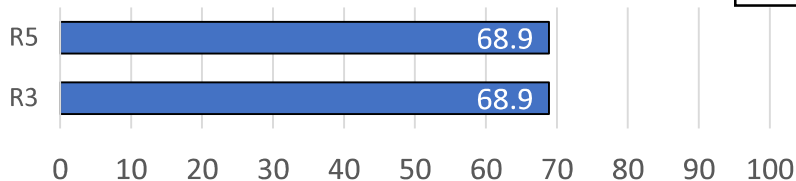
英語

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

◆ (小中) 「勉強は好き」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では0.4ポイント低く、中学校では0.9ポイント高い。「授業の内容はよく分かる」と回答した生徒について、全国値と比較すると、中学校では2.0ポイント低い。

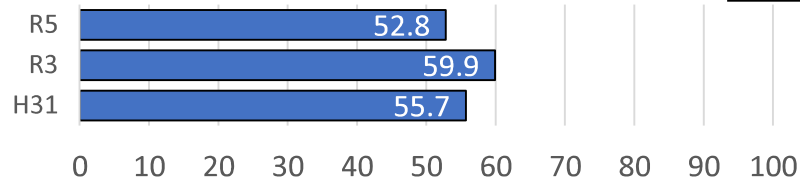
■ ⑤(小) 英語の勉強は好き

R5全国値: 69.3



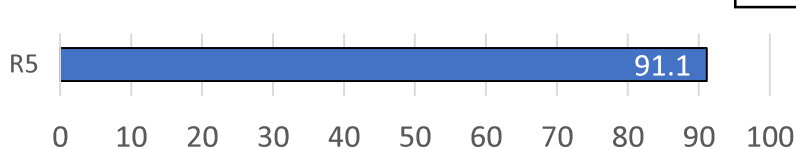
■ ⑤(中) 英語の勉強は好き

R5全国値: 51.9



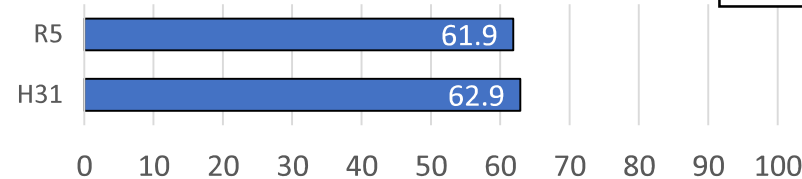
■ ⑥(小) 英語の勉強は大切だと思う

R5全国値: 91.3



■ ⑥(中) 授業の内容はよく分かる

R5全国値: 63.9



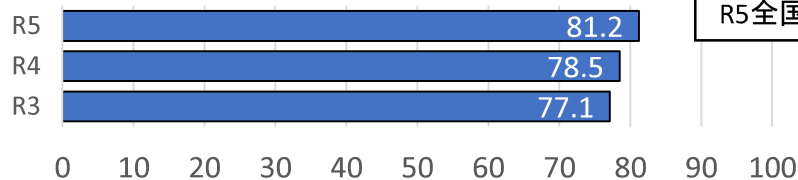
授業改善

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

◆ (小中) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の項目については8割近い数値となっている。

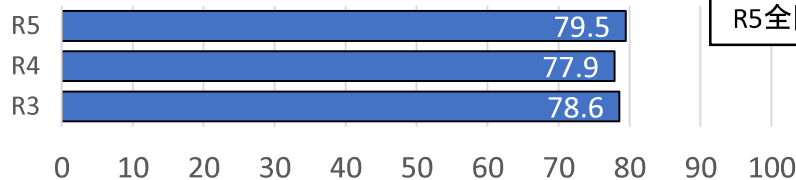
■ ⑦(小) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる

R5全国値: 81.8



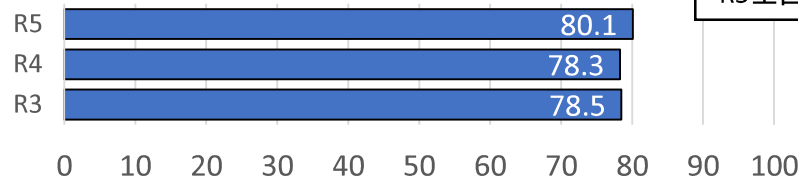
■ ⑦(中) 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる

R5全国値: 79.7



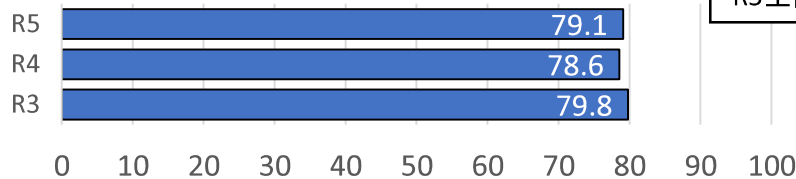
■ ⑧(小) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

R5全国値: 78.8



■ ⑧(中) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた

R5全国値: 79.2



令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の結果③

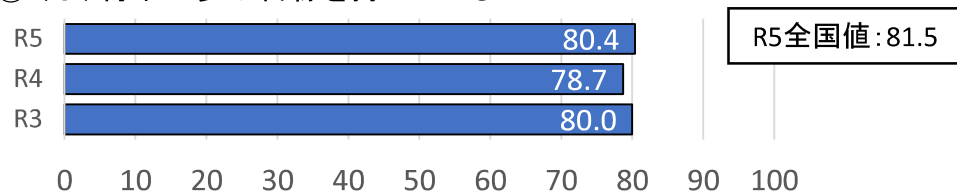
キャリア教育関係

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

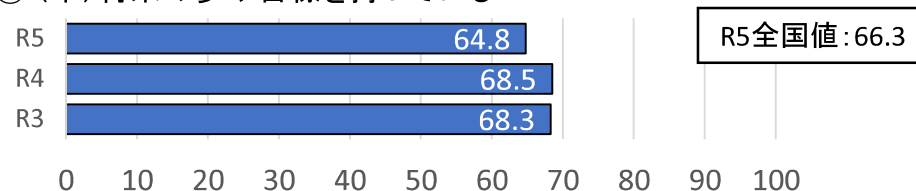
※回答＝「よくしている、時々している」を合算した値

◆ (小中) 「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒は、全国値と比較すると、小学校では1.1ポイント低く、中学校では1.5ポイント低い。「人の役に立つ人間になりたいと思う」項目については、高い水準を維持している。

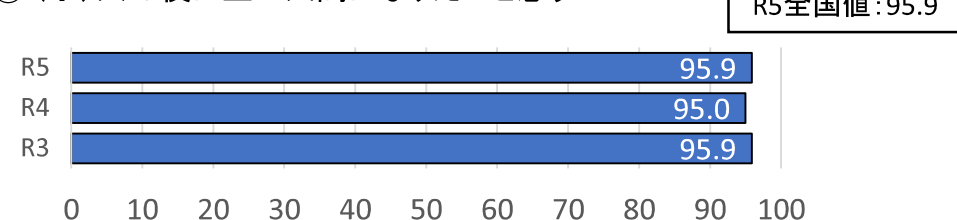
■ ⑨ (小) 将来の夢や目標を持っている



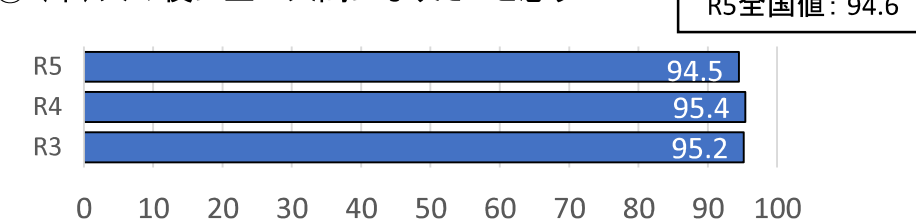
■ ⑨ (中) 将来の夢や目標を持っている



■ ⑩ (小) 人の役に立つ人間になりたいと思う



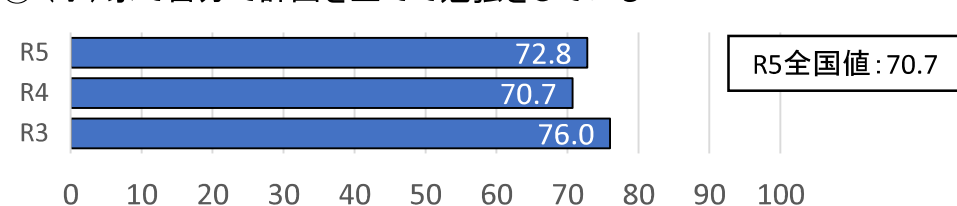
■ ⑩ (中) 人の役に立つ人間になりたいと思う



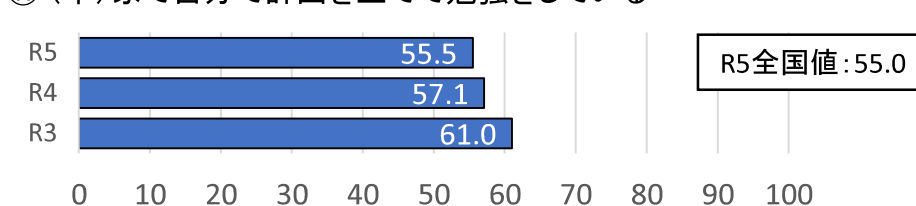
家庭学習

◆ (小中) 「家で自分で計画を立てて勉強する」と回答した児童生徒は、全国値と比較すると、小学校では2.1ポイント高く、中学校では0.5ポイント高い。中学校の勉強時間については、減少傾向が見られる。

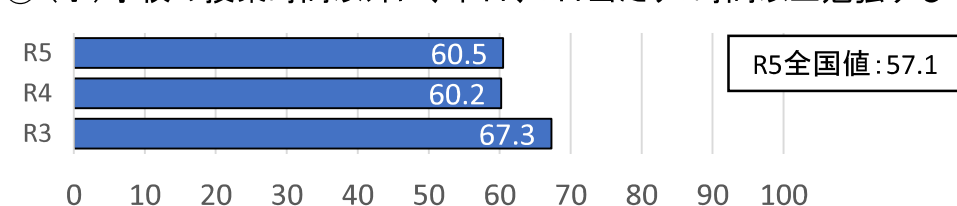
■ ⑪ (小) 家で自分で計画を立てて勉強をしている



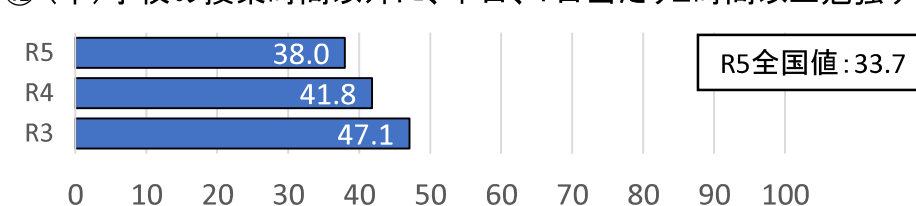
■ ⑪ (中) 家で自分で計画を立てて勉強をしている



■ ⑫ (小) 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強する



■ ⑫ (中) 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり2時間以上勉強する



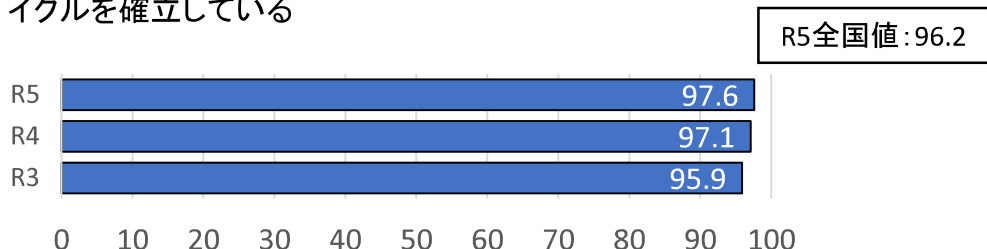
令和5年度 全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査の結果①

学校組織

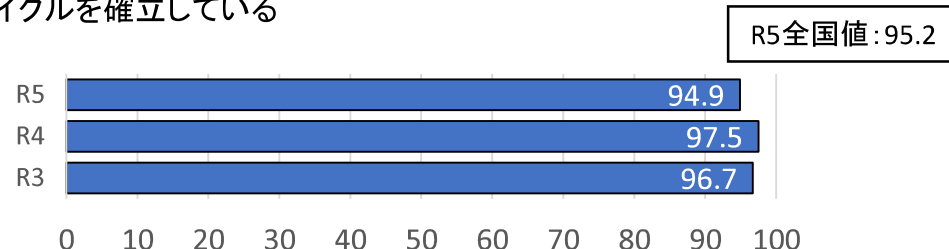
※回答＝「よくしている」「どちらかといえばしている」

◆ (小中) 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答した学校について、全国値と比較すると、小学校では1.4ポイント高く、中学校では0.3ポイント低い。

■ ⑬(小) 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



■ ⑬(中) 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

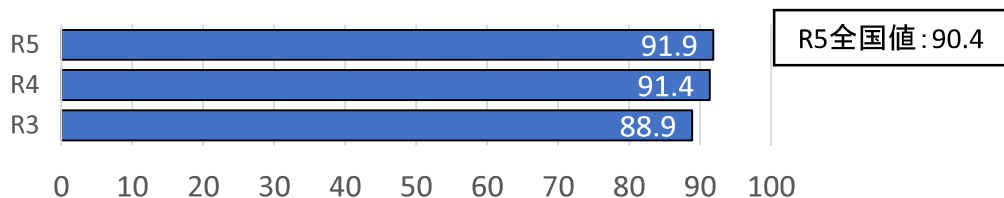


授業改善

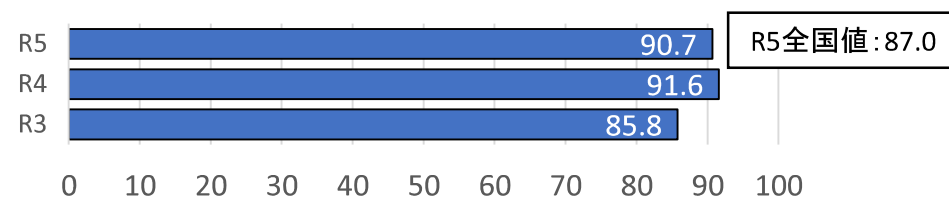
※回答＝
「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合算した値
「よく行なった、どちらかといえば行なった」を合算した値

◆ (小中) 「授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた」と回答した学校について、全国値と比較すると、小学校では1.5ポイント高く、中学校では3.7ポイント高い。「授業研究や事例研究等、実践的な研修をよく行っている」と回答した学校について、昨年度と比較すると、小学校では10.7ポイント高く、中学校では2.1ポイント低い。また、中学校では減少傾向となっている。

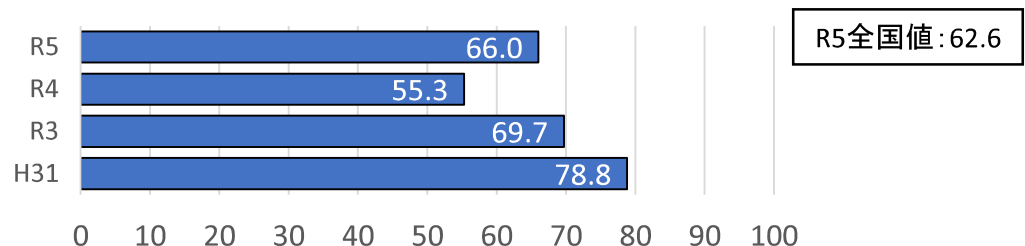
■ ⑭(小) 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



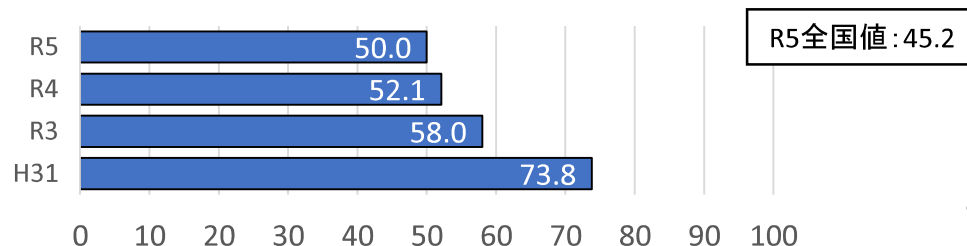
■ ⑭(中) 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



■ ⑮(小) 授業研究や事例研究等、実践的な研修をよく行っている



■ ⑮(中) 授業研究や事例研究等、実践的な研修をよく行っている



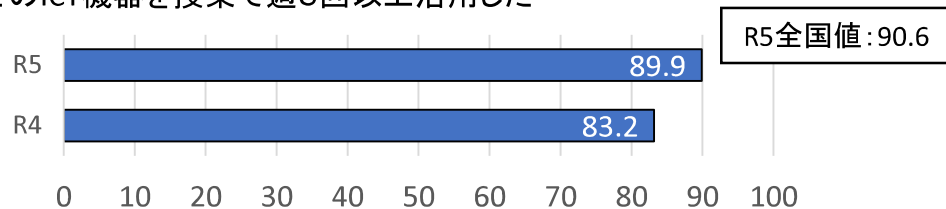
令和5年度 全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査の結果②

ICT活用関係

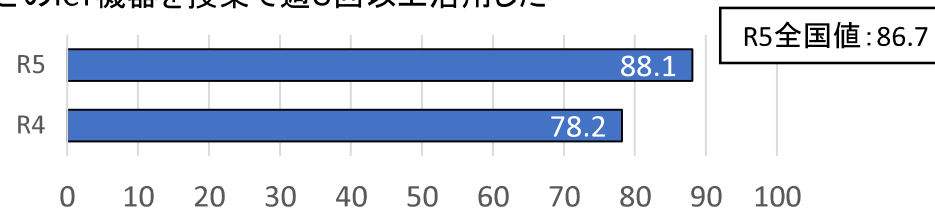
※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

- ◆ (小中) 全ての項目において、昨年度より高い数値となっている。また、全国値と比較しても、多くの項目で高くなっている。
- ◆ (小中) 「児童生徒同士がやりとりする場面」での活用については、5割に満たない結果となっている。

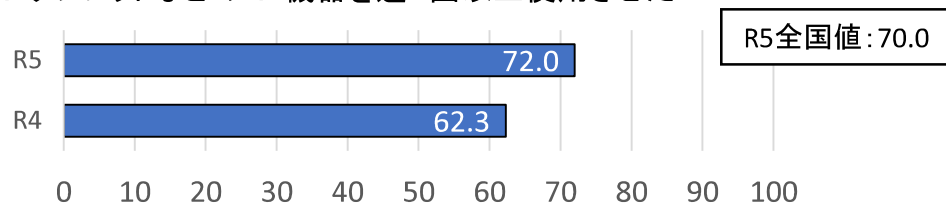
- ⑩ (小) 前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で週3回以上活用した



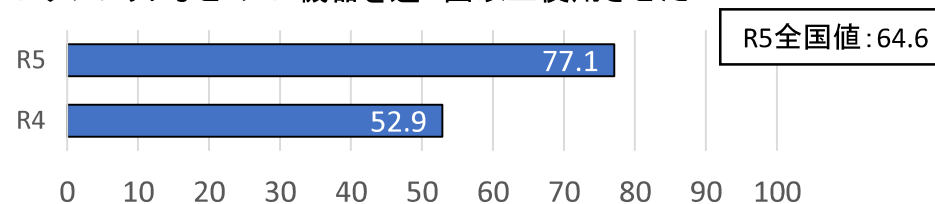
- ⑩ (中) 前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で週3回以上活用した



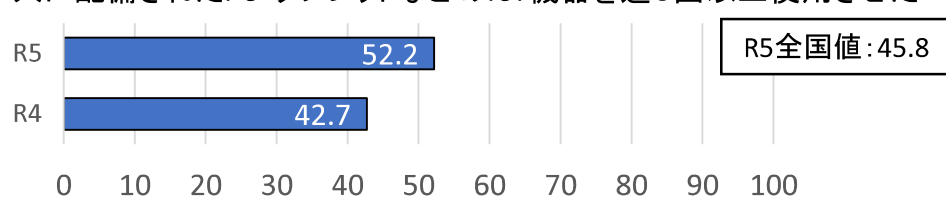
- ⑪ (小) 児童が自分で調べる場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた



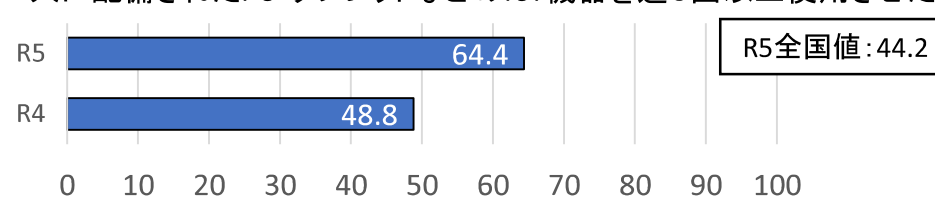
- ⑪ (中) 生徒が自分で調べる場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた



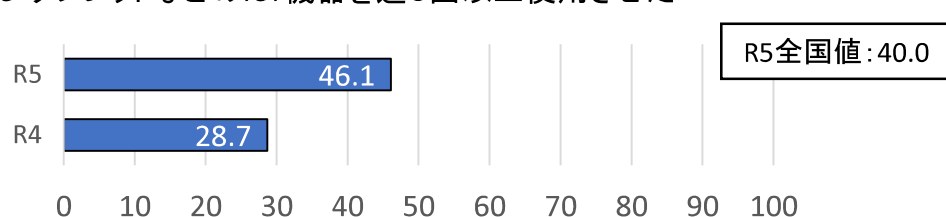
- ⑫ (小) 児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた



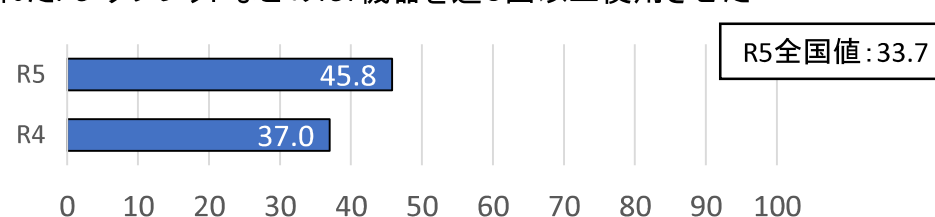
- ⑫ (中) 生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた



- ⑬ (小) 児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた



- ⑬ (中) 生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた



結果分析

「学力調査結果及び質問紙調査結果から見える現状」より

- 小学校では、授業研究等の実践的な研修に取り組む学校は増加している。児童は、一定程度の学力を身に付けている。
- ▲中学校では、授業研究等の実践的な研修に取り組む学校は減少している。生徒は、教科によって課題が見られ、学力向上が求められる状況にある。
- ▲中学校では、小規模校が多くなり、教科担当が1名しかいないなど、校内での組織的な授業改善が難しい状況の学校がある。
- ▲低学力層の割合は、小学校では、標準を維持しているものの、中学校では、増加している教科も見られる。低学力層の児童生徒に対する手立てを講じた授業改善を一層進める必要がある。

「質問紙調査結果から見える児童生徒の現状」より

- 小・中学校ともに、「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」において、ICT活用が進んでいる。
- ▲「将来の夢や目標を持っている」に対する回答について、全国値と比較すると低くなっている。キャリア教育の充実を図るとともに、自主的・実践的な学習活動を工夫する必要がある。
- ▲家庭学習に関する項目において、中学校は、経年で見ると減少傾向にある。授業と家庭学習を効果的に連動させた学習指導が必要である。



学校を取り巻く状況の変化に対応した授業改善の推進

結果分析と今後の取組

今後の取組(大分県教育委員会)

1. 「新大分スタンダード」を意識した単元構想による授業改善

- ①「早わかり！単元計画の作成手順」を活用した実践の推進
- ②「授業力向上アドバイザー」による経験年数の浅い教員への指導支援
- ③小学校高学年における教科担任制の推進
- ④1人1台端末の効果的な活用等による指導方法・指導体制の工夫改善(フロンティア校の公開授業研究会の実施11/10)

2. 中学校における授業改善の推進

- ①未来を創る授業力向上協議会における実践的な研修の実施(英10/6 国10/10 数10/17)
- ②中学校数学授業改善戦略会議の実施
- ③中学校英語指導力向上会議の実施(授業動画の作成・配信、民間テスト等結果分析、指導教諭作成の指導案の公開)
- ④3提言推進校を核とした組織的な授業改善の推進

3. 市町村教育委員会との連携

- ①学力向上検証会議の実施(第1回10/2 第2回2月予定)
- ②各市町村教育委員会との戦略会議の実施

4. 特別活動や体験的な学習の保障

- ①児童生徒自らが、自分のよさや成長を実感できる活動や振り返りの工夫
- ②キャリア・ノートを活用した「目標をもって生きる意欲や態度」の育成

別冊資料

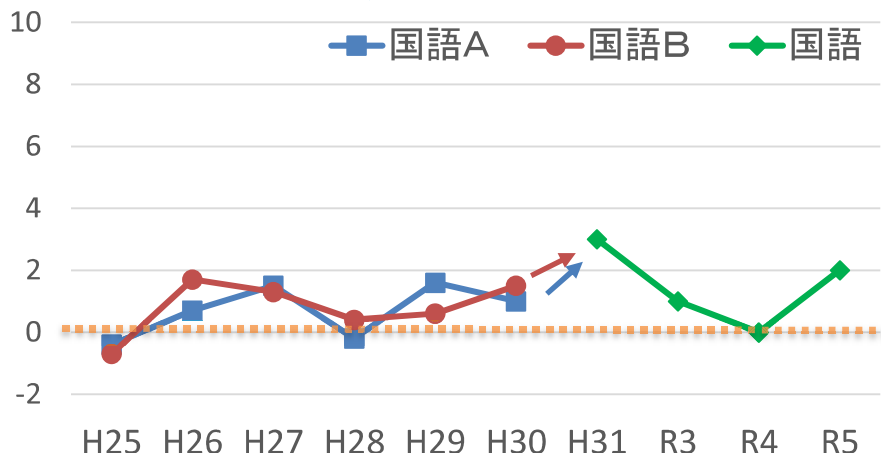
教科に関する調査の分析資料

小学校国語

令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回る。

2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.6	71.2
(2) 情報の扱い方に関する事項	63.2	63.4
(3) 我が国の言語文化に関する事項	対象問題数0のため数値なし	
A 話すこと・聞くこと	76.0	72.6
B 書くこと	28.3	26.7
C 読むこと	72.9	71.2

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」で、全国平均を上回る。

▲「情報の扱い方に関する事項」で、全国平均を下回る。

3 観点別の結果

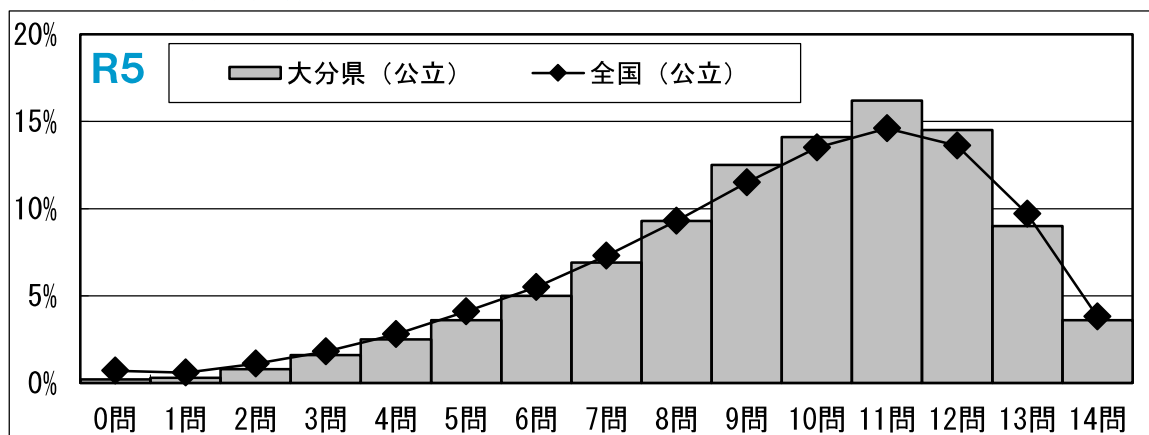
観 点	県	全国平均
知識・技能	69.2	68.9
思考・判断・表現	67.8	65.5

○全ての観点で全国平均を上回る。

○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。

○正答数が全国平均以上(9問以上)の児童は69.9%であり、全国値66.7%を上回る。

4 正答数度数分布



課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問2 設問三【平均正答率 大分県60.7% 全国62.0%】
情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題。

【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

運動面から健康について考えている相田さんが書きこみをした「栄養素の働き」に関するパンフレットを読み、相田さんの情報の整理の仕方として適切なものを選ぶ。

【正答】
自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

調査結果から見える児童の実態



本設問では、運動の面から健康について考えてきた相田さんが、食事の面から健康について考えている友だちの話聞いて、【資料3】に興味をもって読み、情報を整理している。

【正答】

自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、**運動と栄養素の働き**との関係を線でつないで整理している。

【誤答例】※反応率が高かったもの

自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、**食品と栄養素の働き**との関係を線でつないで整理している。



▲ 語句と語句を線でつなぐなどの表し方は理解していても、語句の意味や語句と語句との関係を理解していない。

指導の改善

【学習指導のポイント】

- ① 読むことや書くことの単元において、目的に応じて必要な情報を見付けたり、情報を関連付けて整理したりすることが必要となる学習課題を設定する。
- ② 児童が自分の目的に合った情報の整理の仕方を選ぶことができるようにする。



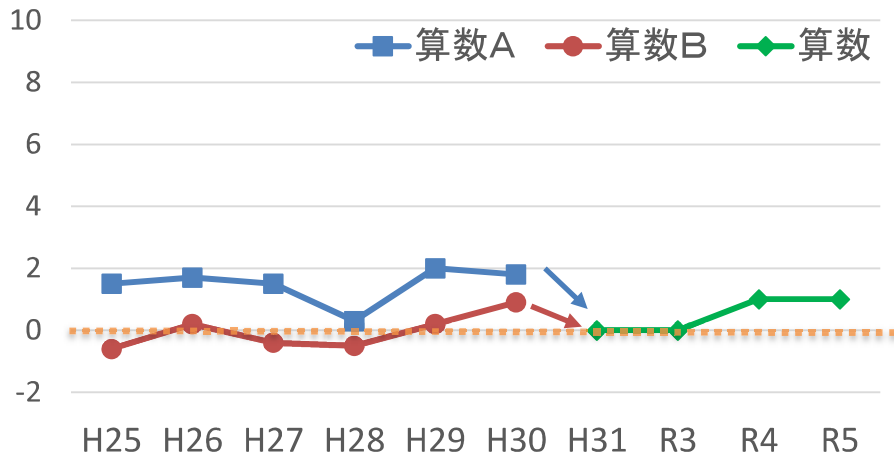
複数の情報を整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解するとともに、そのよさを実感できるように指導することが大切。

小学校算数

令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回る。

2 領域別の結果

学習指導要領の領域	県	全国平均
A 数と計算	68.5	67.3
B 図形	51.0	48.2
C 測定	対象問題数0のため数値なし	
C 変化と関係	71.1	70.9
D データの活用	67.5	65.5

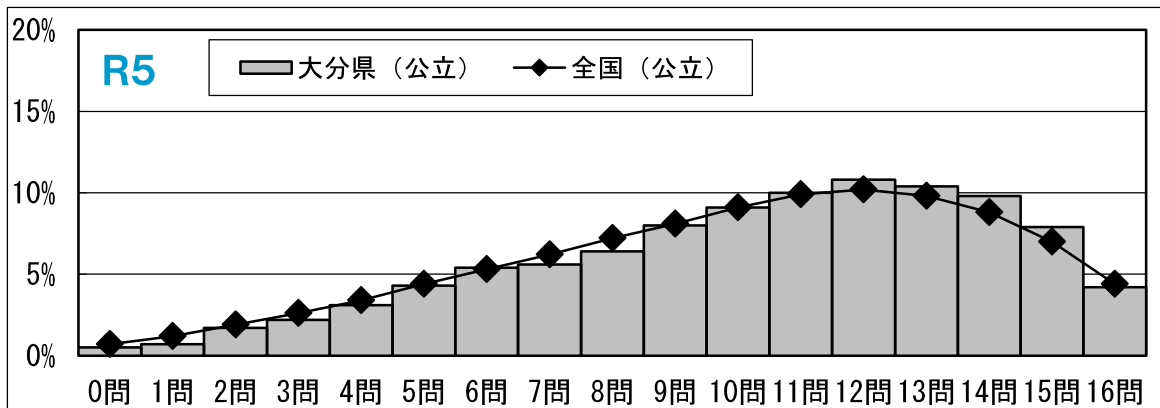
○全領域で全国平均を上回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	68.4	67.2
思考・判断・表現	58.7	56.5

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点で全国平均を上回る。

4 正答数度数分布



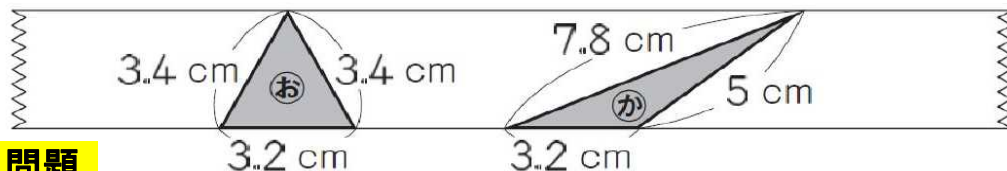
○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
○正答数が全国平均以上(10問以上)の児童は62.2%であり、全国値59.2%を上回る。

□ 課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問2(4)【平均正答率 大分県27.4% 全国20.8%】

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題。



問題

上の(お)と(か)の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。右の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 (お)の面積の方が大きい。
- 2 (か)の面積の方が大きい。
- 3 (お)と(か)の面積は等しい。
- 4 (お)と(か)の面積は、このままでは、比べることができない。

解答類型

<正答の条件> 番号を3と選び、次の①、②の全てを書いている。

- ① 三角形(お)と三角形(か)の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数
- ② 三角形(お)と三角形(か)の高さが等しいことを表す言葉

正答例	3	三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。(お)と(か)の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。(お)と(か)の高さは、テープの幅がどこも同じ長さなので等しいです。だから、(お)と(か)の面積は等しいです。
誤答例	4	高さが書かれていないので、このままでは面積を求めることができません。
	2	三角形(お)は、 $3.2 \times 3.2 \times 3.4 = 36.992$ 三角形(か)は、 $3.2 \times 5 \times 7.8 = 124.8$ だから、三角形(か)の方が大きいです。

指導の改善

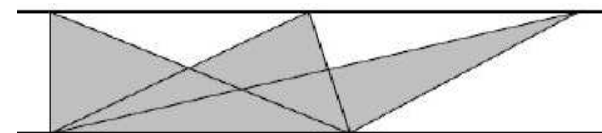
【児童のつまずきを確認】

- 4を選んだ児童は、2つの三角形の高さが同じであることに気付くことができているか、具体的な数値が示されていないので比べることができないと判断していると考えられる。
- 2を選んだ児童は、三角形の辺の長さの積から、三角形(か)の方が大きいと判断していると考えられる。

【学習指導のポイント】

- ★具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるようにする。

○本設問を使って授業を行う際には、平行な直線にはさまれた底辺が等しい複数の三角形の面積を比べる活動が考えられる。その際、底辺と高さの具体的な長さが分からない場合でも、三角形の面積の公式から、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は全て等しくなることを判断できるようにすることが大切である。



底辺はぴったり重なっているの、同じ長さですね。



平行な直線にはさまれた三角形は、高さが等しくなりますね。



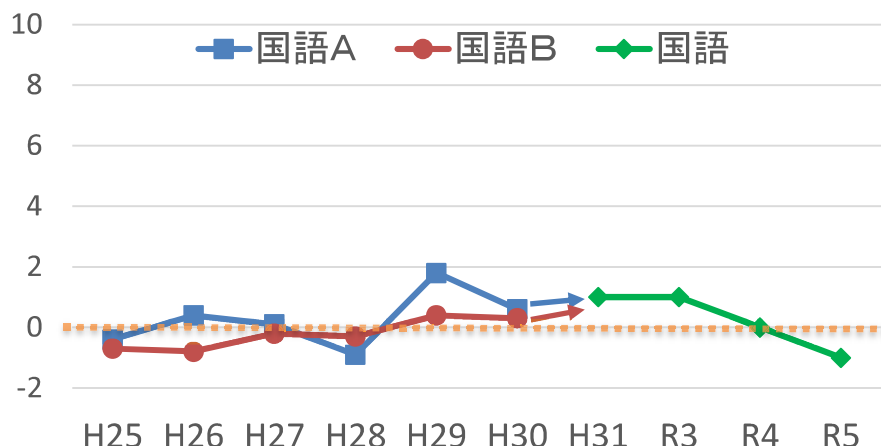
底辺と高さが何cmか分かりませんが、それぞれ等しいので、面積は全て等しくなりますね。

中学校国語

令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



▲全国平均を下回る。

2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.2	67.5
(2) 情報の扱い方に関する事項	62.6	63.4
(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.4	74.7
A 話すこと・聞くこと	81.4	82.2
B 書くこと	60.1	63.2
C 読むこと	62.2	63.7

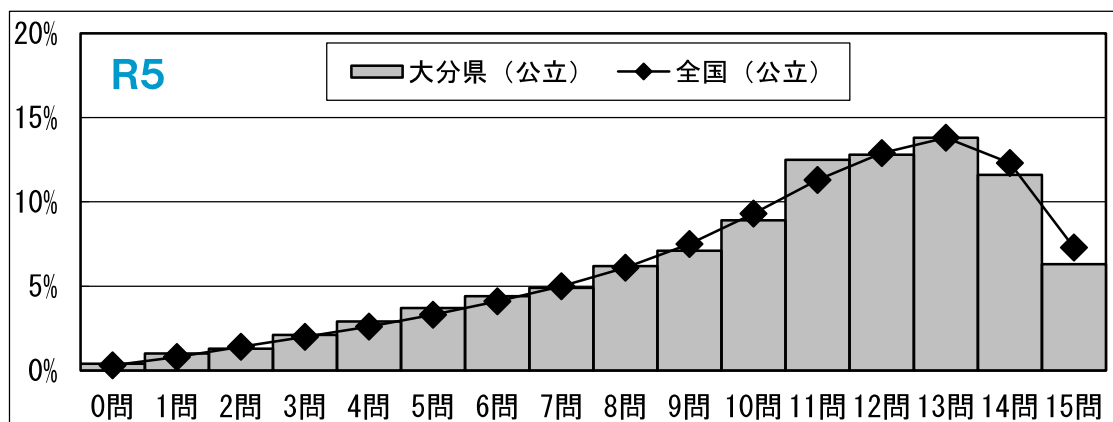
○「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を上回る。
 ▲「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」は、全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	69.3	69.4
思考・判断・表現	68.1	69.7

○「知識・技能」の観点は全国平均並み。
 ▲「思考・判断・表現」の観点は全国平均を下回る。

4 正答数度数分布



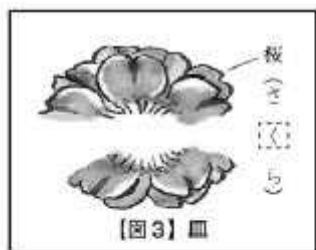
▲低学力層の生徒の割合(正答率20%以下)が全国平均より多い。
 ▲正答数が全国平均以上(10問以上)の生徒は全国値を下回る。

□ 課題が見られた問題と指導の改善 正答率が低かった問題

大問3 設問四 【平均正答率 大分県68.5% 全国 72.1%】

【無解答率 大分県11.6%】

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題。



A
候補

- ・「『判じ絵』の解説の面白さ」として、一つの具体例を示して、解読の仕方を説明する。
- ・その際、【図2】の説明の仕方を参考にする。



B

【図2】の説明



【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

調査結果から見える生徒の実態

【正答例】※Bを使って解答

・「砂」という漢字が逆さまに描かれているので、**漢字の読みも逆にすると**、野菜の「ナス」という意味になる。

【誤答例】

・「砂」という漢字が逆さまに描かれているので、「ナス」という意味になる。



▲判じ絵をどのように読み解くのかを示すことができていない（【図2】とは異なる解読の仕方を文章の中に記述する必要があることを理解できていない）

指導の改善

○ 伝えたい自分の考えを明らかにした上で、複数の事例の中からどの事例を自分の考えを支える根拠として取り上げるのかを検討したり、根拠をどのように文章中に記述したりすると明確になるのかを吟味したりする学習活動により資質・能力の育成を図る。

【学習指導のポイント】

- ① まず、根拠が、考えや言動の拠り所となるものであることを理解させる。
- ② 自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要性について理解させる。
- ③ 根拠として、複数の事例を示したり、専門的な立場からの知見を引用したりするなどの工夫を理解させる。

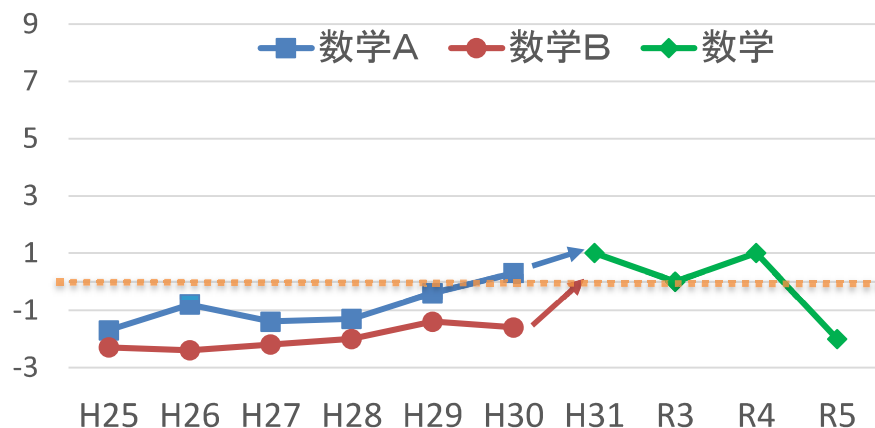
※上記を理解させる際に、生徒が自ら考えたり、交流によって自身の課題に気付かせたりするような学習展開が必要である。

中学校数学

令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



▲全国平均を下回る。

2 領域別の結果

学習指導要領の領域	県	全国平均
A 数と式	60.8	63.0
B 図形	28.7	33.2
C 関数	50.4	51.2
D データの活用	48.3	48.5

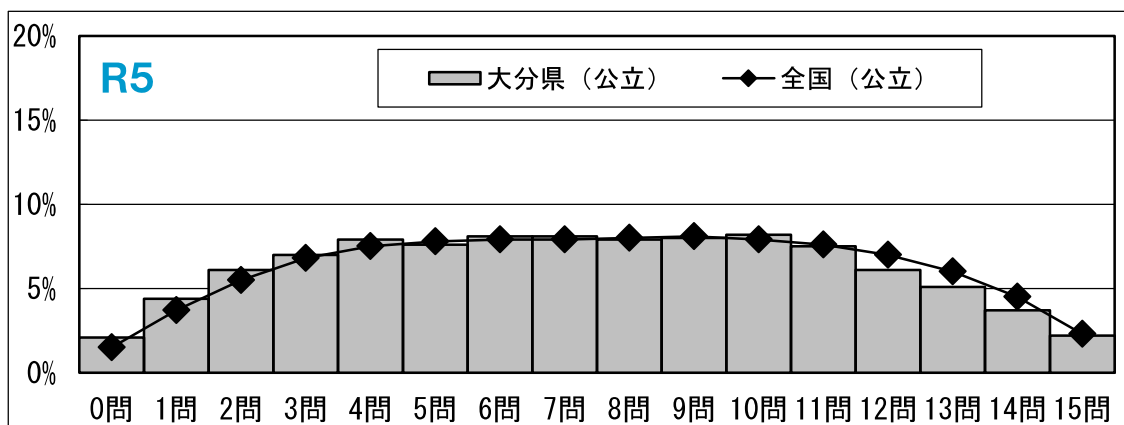
▲全ての領域で全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	53.9	55.7
思考・判断・表現	39.5	41.6

▲「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点で、全国平均を下回る。

4 正答数度数分布



▲低学力層の生徒の割合(正答率20%以下)が全国平均より多い。
▲正答数が全国平均以上(7問以上)の生徒は全国値を下回る。

□ 課題が見られた問題と指導の改善

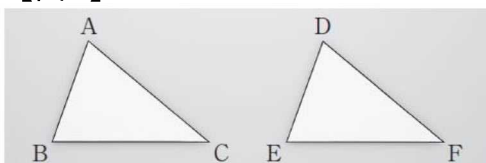
正答率が低かった問題

大問9(1)【県正答率25.5% 全国正答率32.1% 県無解答率29.0%】
ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題。

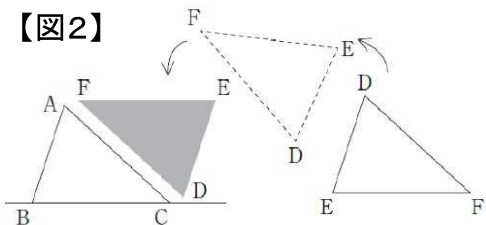
問題の概要

【図1】の合同な2つの二等辺三角形を、【図2】のように片方を回して、【図3】の図形をつくる。このとき、 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ をもとに $BC \parallel AE$ であることを証明する。

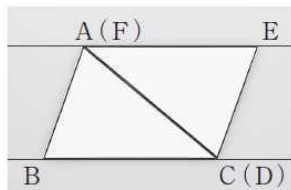
【図1】



【図2】



【図3】



解答類型

(正答の条件)
次の(a)、(b)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。
(a) $\angle BCA = \angle EAC$ (b) $BC \parallel AE$

正答例

$\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、
合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle BCA = \angle EAC$
よって、錯角が等しいから、 $BC \parallel AE$

誤答例

① $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ において、
 $CA = CB$ 、 $AC = AE$ 、 $AC = CA$
3組の辺がそれぞれ等しいから、
 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$
よって、 $BC \parallel AE$ (反応率 19.5%)

② $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ において
 $CA = CB$ 、 $AC = AE$ (反応率 12.2%)

指導の改善

【生徒のつまずきを確認】

- 誤答例①のように解答した生徒は、 $BC \parallel AE$ を示すために、 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ をいけばよいと捉え、それを証明しようとしたと考えられる。
- 誤答例②のように解答した生徒は、 $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ に着目して証明しようとしたと考えられる。

【学習指導のポイント】

事柄が成り立つことについて、構想を立て、それに基づいて証明することができるようにする。

○ 結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したりする活動を取り入れ、仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

○ 本設問を使って授業を行う際には、2直線が平行であることの根拠となる事柄を捉える活動が考えられる。

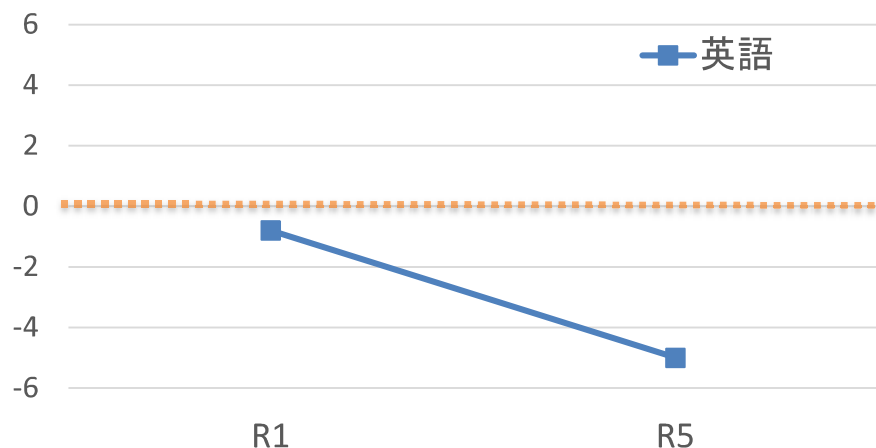
$\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ であることから、合同な図形の対応する角は等しいことを根拠として $\angle BCA = \angle EAC$ を示し、平行線になるための条件「錯角が等しい2直線は平行である」を根拠として、結論である「 $BC \parallel AE$ 」を示すことができるようにすることが大切である。

中学校英語

令和5年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



▲全国平均を下回る。

2 領域別の結果

学習指導要領の領域	県	全国平均
聞くこと	53.3	58.4
読むこと	47.5	51.2
書くこと	19.1	23.4

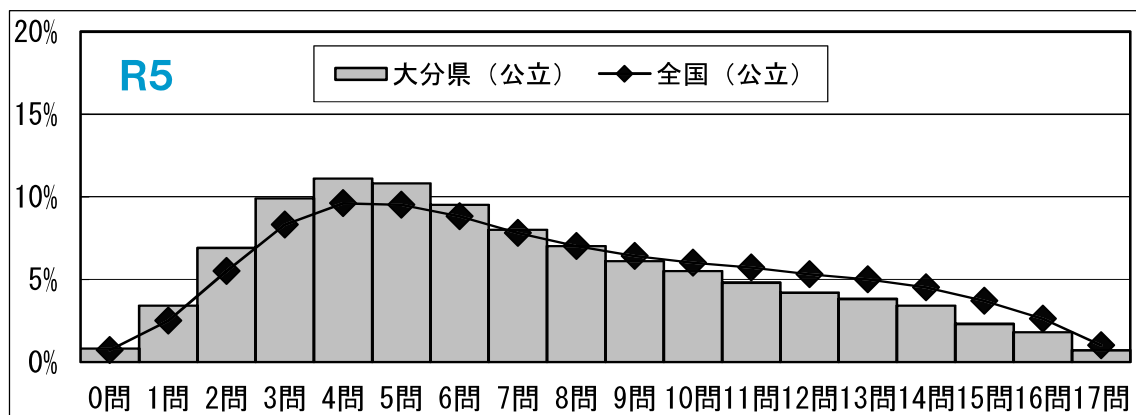
▲全ての領域で全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	46.3	51.5
思考・判断・表現	35.5	38.8

▲「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点で、全国平均を下回る。

4 正答数度数分布



▲低学力層の生徒の割合(正答率20%以下)が全国平均より多い。

▲正答数が全国平均以上(7問以上)の生徒は全国値を下回る。

□ 課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問7 (2) 【県平均正答率31.9% 全国平均正答率34.7%】
日常的な話題について、短い文章の概要を捉える問題。

7 次の英文は、しおりさんが英語の授業で「町の図書館」について書いたものです。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Libraries today are more creative than in the past. The library in our town is more creative, too. We can do a lot of things there. We not only read books and watch DVDs at the library, but also enjoy events like book talks, puppet shows, and workshops about making picture books.

There are many kinds of spaces, too. (), people can read books on sofas, on *tatami* mats or in the library cafeteria. They can relax and read books anywhere. They can use small rooms for studying, meeting, or working.

Our creative library can connect people. One of my friends likes making picture books now after he joined a workshop at the library. He sometimes asks the library staff questions about making picture books by email even now. Also, while some kids are reading together on the *tatami* mats, their parents can become friends with each other.

I hope all of you visit our creative library in the near future.

(1) 英文中の () に当てはまる語(句)として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 Like this
- 2 For example
- 3 Then
- 4 Second

(2) しおりさんが書いた英文の概要(文章全体の大まかな内容)として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 The library in the town is more creative than before. We can do a lot of things there. There are many kinds of spaces, too. The library can connect people.
- 2 There are many kinds of spaces in the library. People can relax and read books anywhere. The library can connect people. We can ask the library staff questions.
- 3 The library in the town is more creative than before. There are many kinds of spaces. In small rooms, people can study or work very hard. The library can connect people.
- 4 The library in the town can connect people. We can ask the library staff questions. Parents can become friends with each other while the kids are reading together.

	解答類型	正答	県平均	全国平均
(1)	1		16.4%	15.1%
	2	○	57.4%	59.8%
	3		18.1%	16.8%
	4		7.9%	8.0%
(2)	1	○	31.9%	34.7%
	2		25.2%	25.3%
	3		26.4%	24.5%
	4		15.8%	14.7%

(1)「文と文の関係を正確に読み取る問題」の正答率は県平均57.4%となっているが、(2)「短い文章の概要を捉える問題」の正答率は県平均31.9%となっており、(1)と比べると(2)の正答率が低く、課題が見られる。

指導の改善

まとまりのある文章を最初から最後まで読み、意味のまとまりごとに英文を捉える。

(例) 諸外国の中学校生活を紹介している文章

- それぞれの情報の関係を示す接続詞に注目させながら、文章の流れを理解するためにキーワードを拾わせ、全体としての内容を数文の英語でまとめさせる活動を行う。

(例) 友人や教師が休日を過ごした中で感じたことなどのエッセイ

- 出来事を段落ごとに時系列で整理させ、どんな内容を伝えようとしているのかを、絵や簡単な英語で表現する活動を行う。

→ 読み取ったことについて、ペアやグループで生徒同士が考えを交流するなど、学習形態を工夫することも大切。

《読み取ることが苦手な生徒に対する指導》

- 読む前に、本文の内容に関わって生徒とやり取りしながら、文章のキーワードに気付かせる。
- 物語などを読む際には、話の展開に合わせて絵を並び替えさせる。
- 意味のかたまりごとに、英文にスラッシュを入れさせて読ませる。

□ 課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問10【県平均正答率6.8% 全国平均正答率7.5%】
与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く問題。

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開いています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

解答類型	県平均	全国平均
正答の条件 ① 学校生活（行事や部活動など）の中から1つ取り上げている。 ② 紹介する内容を一貫性のある文章で書いている。 ③ 25語以上の英語で書いている。	6.8%	7.5%
正答例 Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs. [33 words]		
● 正答の条件①、②、③を満たして解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの 誤答例 We have a school festival in October. It's a chorus contest and we want to win practice hard every day. Many people are come to listen to our songs. [29 words]	30.0%	30.9%
● 正答の条件③を満たさないで回答しているもの	21.6%	21.5%
● 無解答	22.6%	21.4%

指導の改善

① 与えられたテーマについて書くために、自分の考えをもつことができるようにする。

- 特に単元終末の言語活動において、自分の意見を書く活動を行う際、誰に対して、何のために書くのかを明確にして、生徒が書くための視点をもつことができるようにする。
- 書く前にテーマについてペアやグループでやり取りするなど、複数の領域を統合した言語活動を行うことで、書く内容を広げたり明確にしたりすることができるようにする。

② 伝えたいことを読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を正しく理解して書き表すことができるようにする。

- 書こうとする内容について、メモに書いたり表にまとめたりして情報を整理し、読み手に正しく伝えることができるようにする。
- 生徒が書いた文章について、最初から完全な文章を求めるのではなく、生徒自身が内容面、言語面の修正点に気づき、改善していくことができるようにする。

令和5年度大分県学力定着状況調査結果

調査結果

令和5年8月10日(木)
大分県教育庁義務教育課

令和5年度 大分県学力定着状況調査結果

資料1

1 調査の概要

(1) 調査期日 令和5年4月25日(火)

(2) 調査を実施した児童・生徒数(学校数)

〔小学校5年生〕 8,992人(250校)

【市町村立】小学校・義務教育学校,【県立】(調査対象児童が在籍する)特別支援学校,【国立】附属小学校,【私立】明星小学校

〔中学校2年生〕 8,716人(121校)

【市町村立】中学校・義務教育学校,【県立】豊府中学校,【国立】附属中学校,【私立】明豊中学校,向陽中学校,大分中学校

(3) 調査内容 児童生徒に対して、学習到達度調査(「知識」及び「活用」)と総合質問紙調査を実施。

2 結果の概要(教科別偏差値平均)

対象児童	小学校5年生(国立・県立・私立を含む)						合計
教科	国語		算数		理科		
区分	知識	活用	知識	活用	知識	活用	
R5県全体	51.2	51.3	52.0	52.0	50.5	51.0	308.0
R4県全体	51.4	51.9	53.0	52.5	51.5	51.0	311.3

対象生徒	中学校2年生(国立・県立・私立を含む)										合計
教科	国語		数学		理科		英語		社会		
区分	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	
R5県全体	52.1	51.8	51.4	50.9	51.4	50.2	50.9	51.0	51.5	50.4	511.6
R4県全体	51.6	51.5	51.7	50.6	51.1	51.1	50.4	50.3	50.9	50.3	509.5

教科別偏差値の推移【H16～R5】(市町村立学校)

資料2

■ 全ての教科・区分において、偏差値50を超えた学校
 小学校 100校/ 246校(40.7%) ※R4 113校/244校(46.3%)
 中学校 25校/ 116校(21.6%) ※R4 25校/118校(21.2%)

		小学校5年生						中学校2年生									
		国語		算数		理科		国語		数学		理科		英語		社会	
		知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
大分県学力定着状況調査	R5	51.1	51.2	52.0	51.9	50.5	51.0	51.8	51.5	51.0	50.4	51.1	49.7	50.4	50.4	51.2	50.0
	R4	51.3	51.9	52.9	52.4	51.4	50.9	51.4	51.2	51.4	50.3	50.9	50.8	50.0	50.0	50.7	50.0
	R3	51.3	52.1	52.1	51.7	51.4	50.5	51.8	51.1	51.4	50.6	51.2	50.6	50.5	50.2	51.3	50.3
	R1	52.1	51.6	52.2	52.1	52.2	51.3	51.8	50.5	50.7	50.6	50.9	50.5	50.3	50.3	50.5	50.3
	H30	51.7	51.1	51.8	51.5	51.6	51.1	52.0	50.4	51.3	50.2	50.7	49.9	50.7	50.6	50.9	49.7
	H29	51.5	51.1	51.5	51.7	51.9	51.2	50.9	49.8	50.3	50.3	50.8	50.2	50.0	49.8	50.5	49.5
	H28	52.5	51.6	52.4	52.4	52.1	51.1	51.3	49.8	50.3	50.4	51.4	50.6	49.9	50.2		
	H27	51.6	50.5	52.3	52.4	52.1	51.3	51.0	49.4	51.0	50.5	50.6	50.5	49.9	49.9		
	H26	51.4	52.2	52.0	51.9	52.0	51.3	50.6	50.5	51.3	50.5	52.7	51.5	50.3	50.3		
	H25	51.4	50.2	52.0	51.7	50.9	50.7	50.5	49.9	50.8	50.3	50.2	49.7	48.9	49.5		
基礎・基本の定着状況調査	H24	50.2		51.3		49.1		50.2		50.5		50.5		49.6			
	H23	49.5		50.4				50.5		51.1				50.4			
	H22	49.5		49.8				49.5		50.4				50.1			
	H21	49.4		49.8				49.6		49.9				50.1			
	H20	49.6		50.2				49.8		49.8				49.6			
	H19	49.5		49.9				49.7		50.4				50.2			
	H18	48.6		49.9				51.0		49.7				51.5			
	H17	48.6		49.6				49.9		49.9				49.9			
	H16	48.0		49.9				49.8		50.2				49.3			

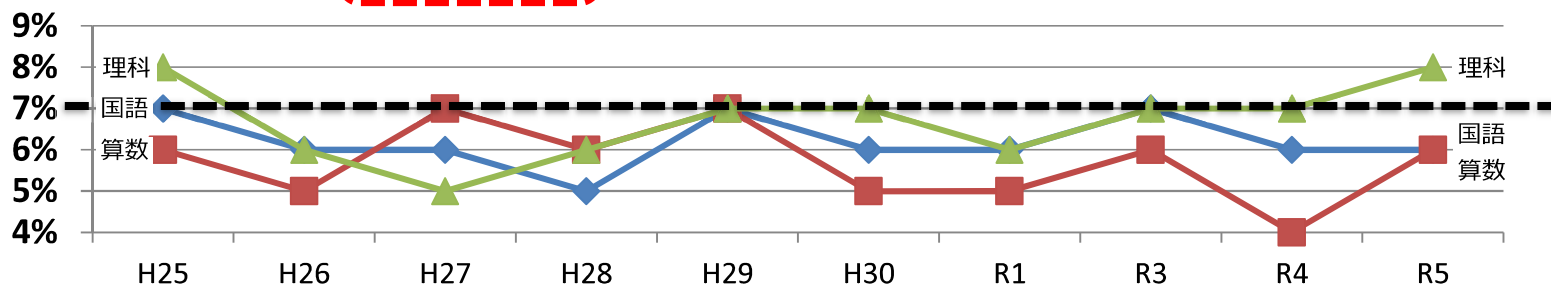
偏差値の5段階分布と低学力層の推移(市町村立学校)

資料3

※偏差値 … 知識と活用の偏差値を総合した教科全体の偏差値

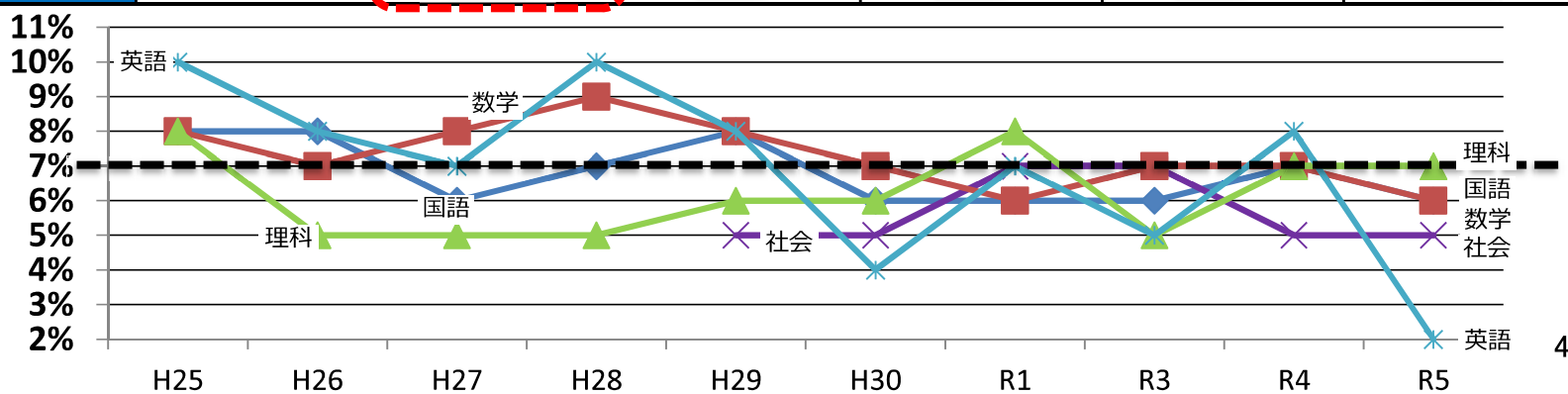
	段階	1		2		3		4		5	
	偏差値	34以下		35~44		45~54		55~64		65以上	
R5小学校 (市町村立学校)	国語	標準 6%		標準 17%	標準 36%	標準 41%	標準 1%				
	算数	標準 6%		標準 16%	標準 30%	標準 46%	標準 2%				
	理科	標準 8%		標準 17%	標準 34%	標準 41%	標準 1%				

低学力層
の推移



	段階	1		2		3		4		5	
	偏差値	34以下		35~44		45~54		55~64		65以上	
R5中学校 (市町村立学校)	国語	標準 6%		標準 17%	標準 33%	標準 41%	標準 4%				
	社会	標準 5%		標準 27%	標準 35%	標準 26%	標準 8%				
	数学	標準 6%		標準 25%	標準 31%	標準 28%	標準 10%				
	理科	標準 7%		標準 24%	標準 30%	標準 31%	標準 8%				
	英語	標準 2%		標準 31%	標準 34%	標準 23%	標準 9%				

低学力層
の推移



市町村別偏差値一覧【R5】

資料4

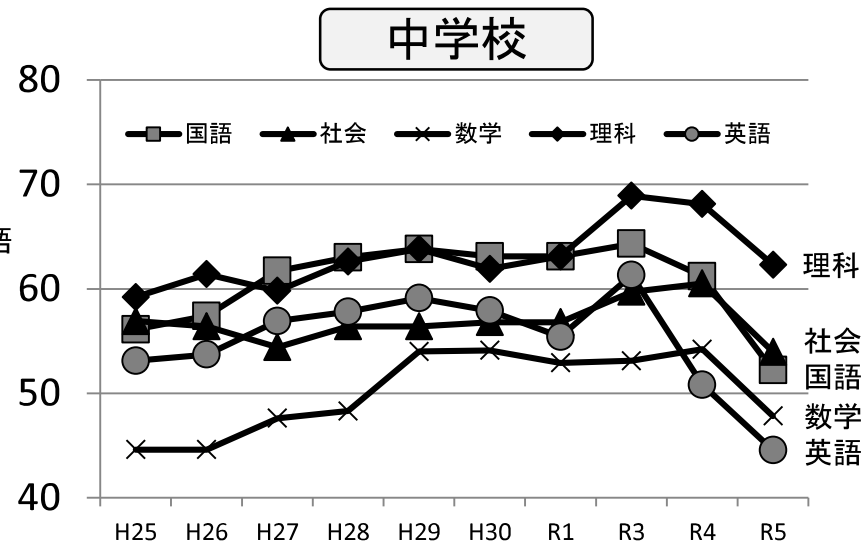
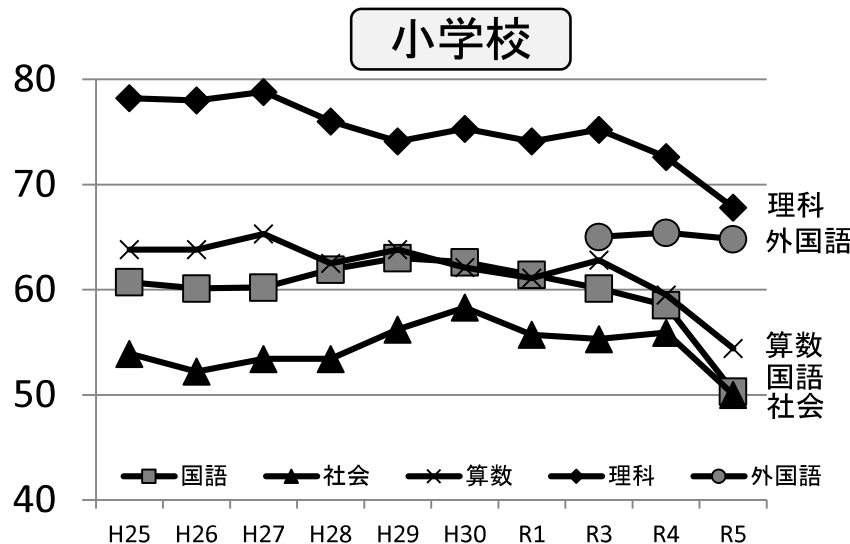
令和5年度	小学校						中学校									
	国語		算数		理科		国語		社会		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
中津市	51.2	50.8	51.6	51.6	48.4	48.9	51.0	50.6	50.0	48.6	50.4	49.4	50.4	49.4	49.4	49.1
豊後高田市	49.0	50.6	49.4	49.7	48.2	49.9	54.9	55.2	52.2	50.2	51.3	50.3	53.0	50.7	52.7	52.2
宇佐市	50.8	52.0	51.7	52.2	51.1	50.7	51.0	51.0	50.6	48.7	52.1	51.2	50.0	48.7	48.8	50.1
杵築市	52.2	52.7	53.2	52.3	52.5	52.7	51.9	52.2	52.0	51.6	49.7	49.8	51.3	50.2	51.6	51.3
別府市	50.9	51.5	51.3	51.6	51.5	51.8	53.2	53.2	51.1	50.8	52.5	50.9	52.1	50.8	51.9	51.8
姫島村																
国東市	52.6	52.5	53.5	53.5	53.4	53.1	52.6	53.2	51.4	50.5	52.6	50.5	52.2	50.0	49.2	49.9
日出町	50.2	50.4	49.6	49.1	49.2	49.5	51.6	51.1	51.7	50.9	55.1	52.7	51.8	49.8	51.6	52.2
大分市	51.2	51.3	52.2	52.1	50.6	51.2	51.7	51.2	51.9	50.6	50.8	50.8	51.3	49.9	50.8	50.6
臼杵市	51.9	52.0	53.2	53.2	51.5	52.0	52.3	52.3	51.7	50.6	53.3	51.7	51.6	50.2	51.3	50.7
津久見市	51.0	51.3	54.0	53.4	50.7	51.3	53.1	53.3	53.1	51.6	52.5	52.4	53.7	50.8	53.3	53.4
由布市	52.6	51.7	53.6	53.0	51.2	52.3	52.7	51.3	52.1	50.6	50.7	50.7	50.8	49.2	50.5	50.1
佐伯市	51.7	51.2	52.0	52.2	50.2	51.4	51.7	52.0	50.6	48.9	50.7	48.9	52.1	50.4	50.8	50.9
竹田市	48.0	47.4	48.0	48.5	48.5	48.4	51.1	51.3	50.8	49.9	49.8	49.2	51.9	49.0	47.3	48.2
豊後大野市	50.7	50.5	50.7	50.3	47.8	48.7	52.0	51.2	50.1	47.6	49.1	49.2	50.3	48.6	48.6	48.5
日田市	50.7	50.4	51.3	52.0	51.0	51.1	50.1	50.4	48.3	48.2	47.6	47.7	48.0	47.8	46.0	47.9
玖珠町	52.0	53.0	55.9	54.7	51.2	51.7										
九重町	49.6	51.7	51.9	51.1	51.0	51.6										
市町村立学校	51.1	51.2	52.0	51.9	50.5	51.0	51.8	51.5	51.2	50.0	51.0	50.4	51.1	49.7	50.4	50.4

※姫島村の小中学校、玖珠町及び九重町の中学校は1校のため公表しない。

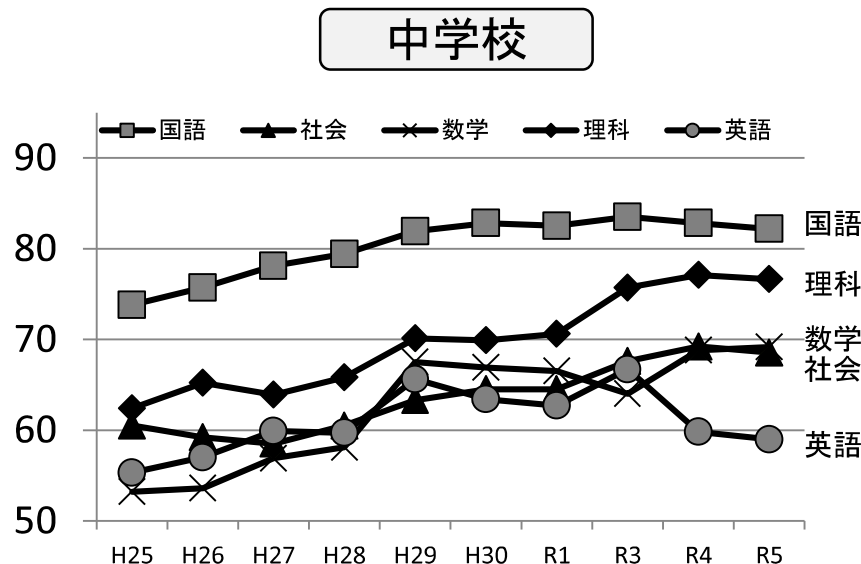
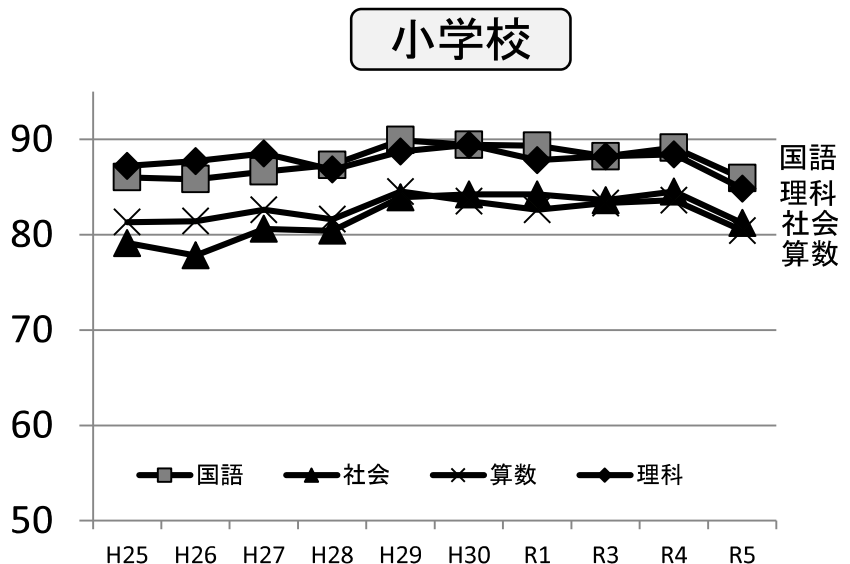
質問紙調査結果の推移「勉強が好き」「勉強が分かる」(H25-R5)

資料5

教科の勉強はどのくらい好きですか。
(肯定的回答割合)



教科の勉強はどのくらい分かりますか。
(肯定的回答割合)

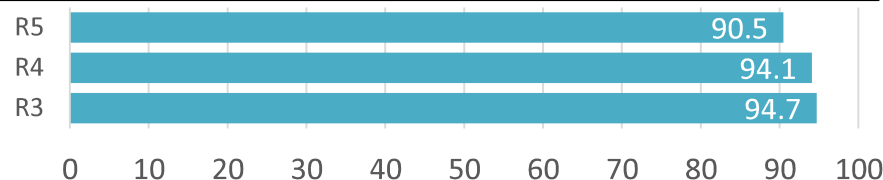
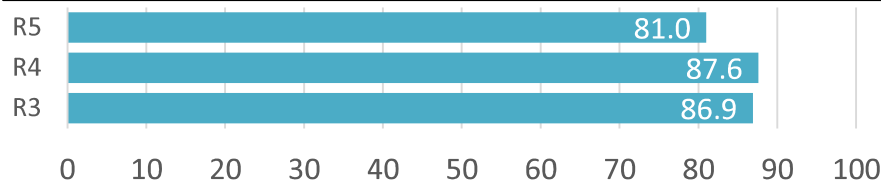
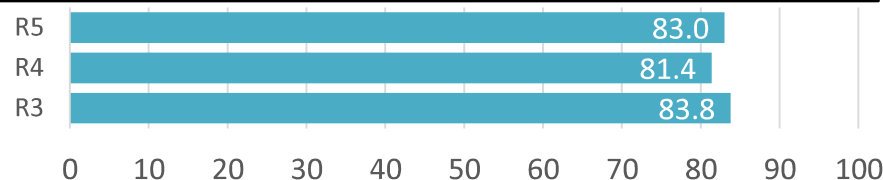
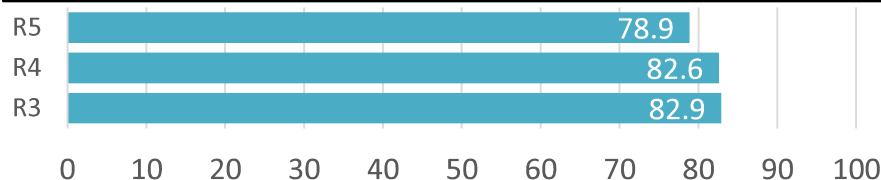
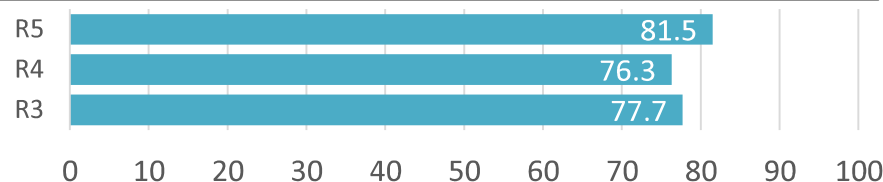
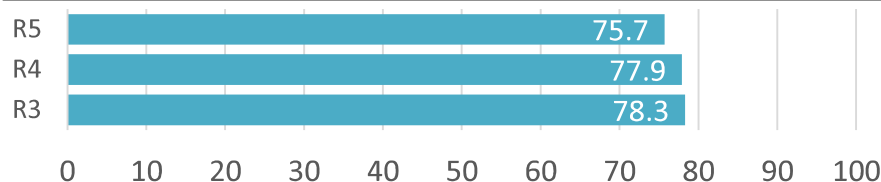
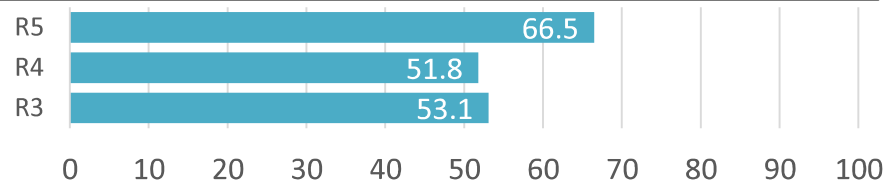
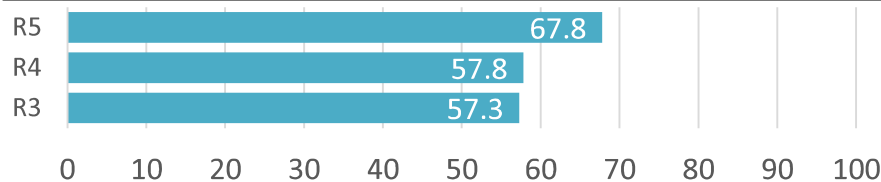


- 「教科の勉強はどれくらい好きですか。」の質問について、小・中学校ともに全ての教科で肯定的な回答が減少。
- 「教科の勉強はどれくらい分かりますか。」の質問について、小学校は全ての教科で肯定的な回答が減少。中学校は、肯定的な回答がほぼ横ばい。

質問紙調査結果から見える児童生徒の現状

資料6-1
【小・中学校の傾向】

- ・「授業の中でめあてや課題が示されていた」、「授業の最後に学習内容のまとめや振り返りをよく行っていた」、「授業で、自分たちで課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理・発表などの学習活動に取り組んでいた」の各項目については、小学校で75%を上回っているものの、やや下降傾向となっており、中学校では高い水準となっている。
- ・「クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していた」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに大幅に増加している。

小学校
中学校
○授業の中でめあてや課題が示されていた。

○授業の最後に学習内容のまとめや振り返りをよく行っていた。

○授業で、自分たちで課題を立て、情報を集め、話し合いながら整理・発表などの学習活動に取り組んでいた。

○クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していた。


質問紙調査結果から見える児童生徒の現状

資料6-2

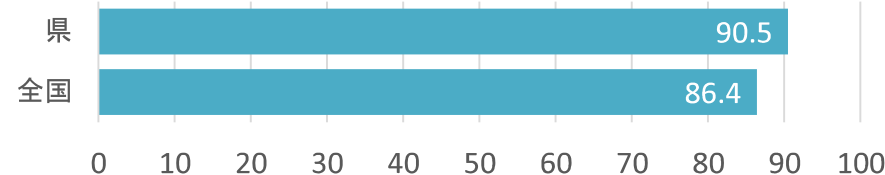
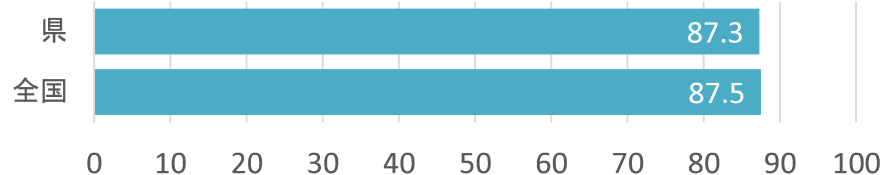
【小・中学校の傾向】

- ・「授業では、となり同士やグループで話し合う活動がある」の項目は、小・中学校ともに高い水準となっており、「グループで話し合う授業は楽しい」と回答している児童生徒も85%を超えている。
- ・一方で、「友だちの意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが深められたりして、勉強が面白いと思うことがある」の項目では、小・中学校ともに全国値は上回っているものの、小学校で73%、中学校で63%に留まっている。
- ・また、「クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがある」の項目は、小学校で54%、中学校で40%の児童生徒が「集中できないことがある」と回答している。

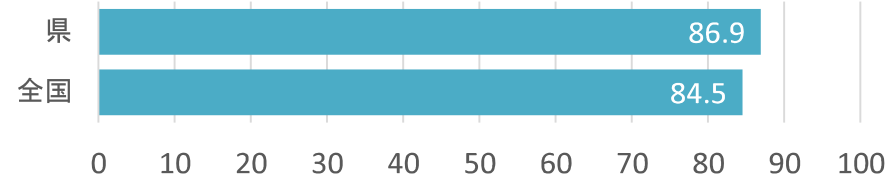
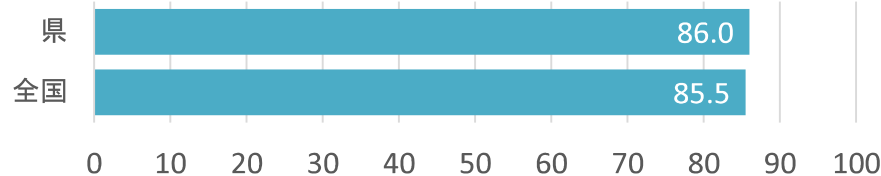
小学校

中学校

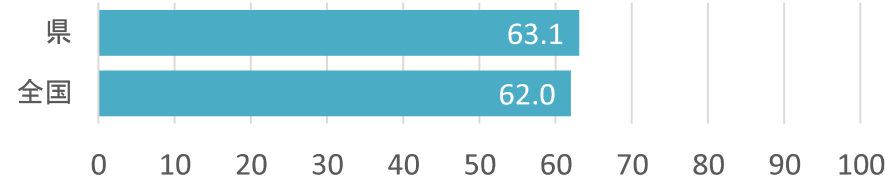
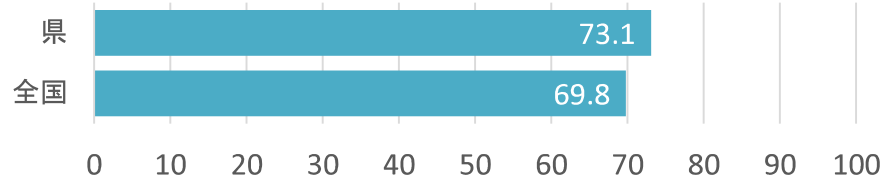
○授業では、となり同士やグループで話し合う活動がある。



○グループで話し合う授業は楽しい。



○友だちの意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが深められたりして、勉強が面白いと思うことがある。



○クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがある。

